

久留米の自然

久留米の自然 127号

2016年5月1日

史跡 塚花塚古墳

撮影時：2015年秋

撮影者：河内俊英



身近な装飾古墳

河内 俊英

装飾古墳は全国に800基ほどあるが、九州には特に多く凡そ500基もある。熊本県には186基あり、菊池川流域に122基も集中して存在する。

装飾古墳は、福岡県内の南部から筑後さらに筑豊に分布する。装飾古墳というカラーの鮮やかなものをイメージするが、色彩のついていない線刻模様のももある。装飾には地方によって特色がある、主に5世紀から6世紀に造られたものと推測されている。有名なキトラ古墳の絵はもう少し後の時代のもので別格である。装飾は多様であるが、舟あるいは馬などの乗り物があり、他にも幾何学模様、さらに太陽や月を思わせる円形模様なども見られる。これらの装飾は専門の集団が居たと考えられている。

装飾古墳は熊本ではほとんどが菊池川流域、福岡県内では筑後川流域に集中している。さらに筑後川では耳納連山側に圧倒的に多く、川の右岸甘木・朝倉地方には少ないという、謎として注目されてきた。しかしながら、

筑豊や北九州には古くから装飾古墳が知られている。

装飾の文様に地域的な特徴があり、ワラビのような形の蕨手文(写真)のある古墳は8基のみであり、熊本の古墳には見られない。筑後川流域と耳納山地の周辺に7基あり、もう1つは、遠賀川上流域・桂川町の王塚古墳であるが、王塚は飛びぬけて色彩と装飾が豊かなものである。ごく限られた地域の特徴的な装飾模様は、特定の集団の埋葬ではないかと、考えられている。

装飾に使われた顔料の主なもの、5種類であり、白、白、青、黒、黄色であり、白土、ベンガラ、黄土、雲母を含む鉱物、マンガン酸化物などであることが調べられている。

なぜある時期だけ、また特定の地域の古墳にだけ描かれ、廃れてしまったのかなど興味深い疑問が残るが、今後の研究が解明してくれるであろう。身近な久留米及びその周辺にも、数多くの装飾古墳があることはありがたいことである。

久留米市の蝶 53

クロヒカゲ

国分 謙一

5月中旬から薄暗い山道を歩いていると、薄暗い中からぱらぱらと、大きめの黒い蝶が飛び立ちます。非常に敏感な時と、あまり遠くに飛んで行かない場合がありますが、観察は比較的容易にできていると思っています。

“黒日陰”と言われる通り、少し離れると表裏とも黒く見え、薄暗い場所に生息しているので、ほとんどの方は蛾と勘違いをされ、悲鳴をあげる方もおられます。

学名(世界共通名)の *Lethe diana* は、仏教用語の“三途の川”の“ダイアナ(月の女神)”だそうで、この仲間の生息場所の環境を表しているのかも知れません。

九州から北海道まで広く分布していますが、関東地方等一部地域では平地では稀となります、しかしその理由は分っていません。また伊豆諸島の御蔵島に生息しているものは違いがあるので、別種であるとか地理的変異だとの論争がされています。研究者によって種の区別に違いがあるのですが、研究され尽されたと思われる蝶でさえ解らない事が多く残っています。

間違えないで

九州から北には模様が良く似ている3種類が生息していて、他にはヒカゲチョウとクロヒカゲモドキといい、久留米市でも3種類とも記録されていますが、私はクロヒカゲ以外見たことがありません。数年前にクロヒカゲモドキの名前で久留米にて写したとして、インターネットに投稿写真が出ましたが、クロヒカゲと模様がそっくりなので間違ったものと思われる。図鑑の知識だけで、実物の標本を見ていなかったと思われるな

ん。自分で一度だけでも標本を作製していたら、野外でただで簡単には区別がつかないのですが。

宅地の安定(住宅の老朽?)か?

前号のスジグロシロチョウと同じで、国分町の自宅周辺では、50年以上前の小・中学生の頃は見たことがなく、野中町の正源寺(競輪場)周辺も見ることができませんでした。当時は高良山まで行かなければなりませんでした。近年は自宅周辺でも時々目撃します。幼虫の食草はササ類なので、放置されている庭が増加したとは見た範囲ではありませんので、日陰や庭木の状態が移動(生息?)に適した環境になったのではと思っています。

久留米インターから上津町まで、バイパスが正源寺(競輪場)の雑木林の中を通り、周辺が宅地開発されたので、移動してきているならばどうなるかを見守りたいと思っています。

久留米市での観察

久留米市では5月中旬から10月まで見られますが、飛んでいる時は大きめの黒いものなので、簡単にクロヒカゲではないかと予想がつき、昼間は山間の薄暗い樹林の中の小道を歩いていると、あちらこちらから飛び立ちます。しかし夕方、太陽が沈みかける頃になると、活発に飛び回り、夕日の当る地上や低木の葉上、手すり、ベンチの上等で縄張りを持ち、他の蝶を追いまわすような光景も見られます。時間と明るさの関係を調査してみませんか、調査結果は会誌に報告してください。クロヒカゲは花に訪れることは少なく、樹液や熟した果実に訪れるので、山間のやや日陰のクスギ等の樹液で、カブトムシやクワガタと同時に樹液を吸っているときが、近くまで接近できるので観察が容易ですが、樹液にはハチも来ていますが、驚かさなければ大丈夫です。秋になると熟した柿等の果物を高良山山麓の林の中に設置していると集まります。

郷土の樹木(23)

ヤマモガシ

猪上 信義

ヤマモガシ科の常緑小高木～高木。樹皮は灰褐色で滑らか。若い枝には稜があります。葉は薄い革質、葉柄は5～10mm、葉身は長楕円形～楕円形、長さ5～12cm、幅2～3.5cm、若い枝の葉には粗い鋸歯がありますが、成木ではほとんど全縁です。花は7～8月、葉の腋から試験管洗いブラシのような総状花序を伸ばし、白色で長さ6～15cm。果実は長さ1cmほどの楕円形堅果で、濃紺色に熟します。



写真1. ヤマモガシの葉と花

和名は果実の付いた状態がモガシ(ホルトノキの別名)に似ていることにちなんでいます。

日本では本州の東海・紀伊半島、四国、九州、琉球の常緑林内に生え、台湾、中国南部、インドシナに分布しています。

福岡県内では海岸近くでもあまり潮風の影響を受けにくい海拔200m以下の丘陵地や山裾の常緑林内樹陰地に生育し、高良山付近の林内でもよく見られます。このあたりでは低木状またはせいぜい直径15～20cm程度のものばかりですが、筑紫野市山家の神社には直径70～80cmに達する巨木が見られます。

葉は一見ヤマモモに似ていますが、葉脈の模様

や葉の厚さなどで区別できます。国内ではどの地域でも数が少なく、積極的に利用されず、せいぜい薪として使われる程度でしたが、水分が多くミズガシと呼ぶ地方(高知県)があります。

ほかにこれといったエピソードが見当たらない樹木ですが、サツマニシキという蛾の食草として知られています。これは一般的に地味な色の羽根が多い蛾の中にあつて、朱色、水色、紺色、白色からなるきれいな模様をしています。そのため蛾の収集家にとっては垂涎的だそうで、むしろこの人たちの方がヤマモガシに精通しているかもしれません。



写真2. フジバカマに留まるサツマニシキ

日本でのヤマモガシ科植物はこれ一種ですが、世界には1,500種ほど知られ、特にオーストラリアや南アフリカでは多数分化しています。その主なものにはグレビレア、テロペア、バンクシア、プロテア、マカダミア(果実はマカダミアナッツとして有名)などがあります。これらをはじめヤマモガシ科の植物はどれも特異な構造の花が多く、近年日本でも切り花や鉢物、鑑賞樹などとしてかなり導入されています。

試しに上記の名前をインターネット検索してみてください。きっと目を見張るような美しい花が見られると思います。

高良川流域のキノコ (その29)

角 正博

今回は、ヌルデタケ属 *Porodisculus* ヌルデタケです。

49. ヌルデタケ (白膠木茸)

Porodisculus pendulus

和名はヌルデタケですが、とくにヌルデと関係が深いわけではありません。最初に発見された時、たまたまヌルデに生えていたのが和名の由来のようです。高良川流域でも、さまざまな広葉樹の落枝に2月中旬~3月下旬にかけてまれに見られます。子実体は褐色、傘と柄からなる長さ1cm程度の小型の菌類です。形態もサルノコシカケ型のキノコとしてはやや変わっていて、柄は傘の背面について、基物から釣り下がって下向きに傘を開くので、その様子を正面から見ると、柄は鼻筋、傘は小鼻のふくらみに見え、人の鼻の形に見えます。管孔面はくぼみ、灰褐色、縁は内側に巻き込みます。

高良川流域の地衣類 (その17)

角 正博

第117号で、形状によって地衣類を三つに便宜的に分けました。今回から高良川流域の固着(痂状)地衣に移ります。樹状地衣と同様に流域の概要を知るために、すでに述べた参考文献にしたがって、高良川流域の固着地衣類の簡易検索表を考えてみます。検索表は長くなるので、分けて掲載します。今回は高良川流域の固着(痂状)地衣の中でも「子器が椀状、皿状で、子器の周囲(果托)の色が地衣体の色と同じレカノラ型子器」の地衣類の簡易検索表とします。

1. 地衣体の形が痂状である。
2. 子器が椀状、皿状で、子器の周囲(果托)の色が地衣体の色と同じ(レカノラ型子器)である。
3. 橙黄色から橙色の子器をつける。
4. 地衣体は橙黄色から灰橙色。→ダイダイゴケ科ダイダイゴケ属
5. 灰黄色痂状・顆粒状で岩上に生育し、

子器が大きく盤が橙赤色である。→ツブダイダイゴケ

5. 灰黄色痂状で岩上に生育し、子器盤が橙赤色である。→ダイダイゴケ
4. 地衣体は灰緑色。→ダイダイサラゴケ科ダイダイサラゴケ属
5. 樹皮上・岩上に生育し、子器の基部がくびれ、子器盤が橙黄色である。→ダイダイサラゴケ、コツブダイダイサラゴケ?
3. 黄色・赤褐色から茶色の子器をつける。→チャシブゴケ科チャシブゴケ属
4. 樹皮上に生育し、子器の周囲が滑らかで、子器果托にシュウ酸カルシウムの結晶をもたない。地衣体の直径は10cm以上になることもある。粉芽も裂芽も欠く。子器は直径2mm程度の無柄円形皿状。子器盤は茶褐色。→レカノラ・メガロケイラ
4. 岩上に生育し、子器の周囲が滑らかである。→レカノラ・スブインメルゲンズ(高良山北東面耳納山麓に見られる。)
3. 淡茶色から黄緑色の子器をつける。→チャシブゴケ科チャシブゴケ属
4. 岩上に生育し、縁部に裂片が広がる。→コパノチャシブゴケ(高良山北西面)
4. 樹皮上に生育し、子器の周囲が粉末状になる。地衣体は淡黄灰色から淡黄色、淡黄緑色。子器の直径0.5mm以下で、無柄円形皿状、縁部は多少波曲し、粉芽をつける。小さな子器が密集し、しばしば亀甲状となる。子器盤は黄褐色。→コナイボゴケ(コナチャシブゴケ)
3. 淡褐色から淡赤色の子器をつける。
4. 盤には放射状模様がある。→トリハダゴケ科ニクイボゴケ属
5. 岩上に生育する。→イワニクイボゴケ
3. 赤色の子器をつける。
4. 子器が地衣体に埋没する。→ザクロゴケ科ザクロゴケ属ヒメザクロゴケ

動物笑い話 その71**雑種 米田 豊**

♀ウマと♂ロバの雑種はラバ(逆はケッテイ)で重要な家畜である。昔、動物園では客寄せのためか、異種を交配させて雑種を作った。サイズが異なる種間では出産の負担から♀が大型であり、♂ヒョウと♀ライオンからレオポン、同サイズの♂トラと♀ライオンからタイゴン(逆はライガー)、その外シマウマとウマからゼースが作られた。雑種は両種の中間的な特徴を示し、普通不妊である。友人が真顔で「同サイズのポニーとシカから雑種が出来るかな」と言うので、「出来ないよ、馬鹿だな」「アメリカライオンと言われるピューマとライオンだったら可能だね」「ピューマは分類上小型のネコ類に近縁とされ、別属だから出来るね」「出来ると思うけど両親とは代わり映えしないだろうし、良い名前が浮かばないよ」
※近縁種では、ニホンザルと外来のタイワンザルのように自然交雑が起こり、問題化している。

両脇に銀色の筋がビシッと目立つ大きなアメンボ(オオアメンボ?)だった。

同じような暗い浅い小さな水溜りには最初に見つけたものと同じものがいた。まだ幼虫もいるようだ。おまけに、小さな丸っこいガムシまでいた。胸の縁が薄い黄色だ。

帰って、ネットで色々を探るとヤスマツアメンボというものがでてきた。まず間違いないだろう。きちんと同定するには、オスの腹面の黒い一對の斑を見なければいけないらしいが、生息環境を考えると、ヤスマツしかない。1cm弱のガムシは、止水の池縁や落ち葉が堆積したような場所にいるキベリヒラタガムシかもしれない。

水辺にも、落ち葉の中にも目に見える小さなものから見えないものまで色々な動物が棲んでいることは知っているが、このような狭く浅い水溜りに、1cm程もある生き物がいるとは思ってもいなかった。まさに、環境の多様性は、生物の多様性だ。

例会報告**生き物に魅せられて その29****ヤスマツアメンボの巻 松永紀代子**

2015年7月、小雨が降ったり止んだりの天拝山、七夕の今夜、天の川は見えそうに無い。天拝山へ行くと必ず寄る場所がある。暗い山の斜面に倒木が重ねて置いてある林縁だ。キノコや寄生蜂などで私にとっては面白い。ざっと見て粘菌があるのを見つけて画像を撮った。と、足元の数ミリの深さしかない滲みでた水に、アメンボがいた。

えっ、なんで? こんな場所に1cm強のアメンボが何匹もいるんだろう。カメラを近づけると、ツツ、ツツ、と逃げて、すぐに水のない場所になる。すると、ツンツン跳ねて水溜りに戻る。この場所はトンボ池からも近い。だとしたら、池にこのアメンボがいて、移動したということか? そう思って池に行ってみると、こちらのものは体の

高良山の史跡探訪**梅野 忠**

平成27年12月12日(土) 樋口一成史の案内で今年も高良山西麓の史跡探訪が開催された。

スタッフ6名と参加者4名です。高良山下宮社に集合して樋口一成氏の説明を聞く。この下宮社は後醍醐天皇が第16皇子の懐良天皇に全権をゆだね征西將軍官として九州に派遣された。その懐良天皇の立願文があるとのこと。要旨は「祭礼の興行、造営の成功、筑前富永庄地頭職の寄進、度重なる戦火に多くの人々を苦しめたこと、社壇が灰燼に帰し、心を痛める。願わくば速やかに御冥慮を賜り南朝の回復と世の平安を祈る」天授3年(1377年)2月9日一品懐良天皇とある。

南北朝の主な戦いをみると。

新田・北畠軍に敗れた足利尊氏は、九州に下っ

て芦屋に上陸する。

○多々良浜の戦

足利勢千人、菊池勢2万人。勝敗は明らかに見えたが、風が激しくなり風下の菊池勢は目も明けられない砂嵐が吹き付けて菊池氏敗走する。裏切り者をでたとされている。

○大保原の戦

筑後川をはさんだ最大の合戦。武光が川で血刀を洗う。大刀洗の由来。

○大宰府に征西府を置く。

懐良親王は御在所を大宰府におき菊池武光が輔佐。南朝の黄金時代が12年間続く。

○京より今川了俊が九州へ

九州探題に任命された了俊に追われた親王は高良山に立て籠るも支えられず、さらに星野・矢部の奥地へ敗走する。

南北朝の統一

1392年南朝の後龜山天皇は三神の神器を北朝の御小松天皇に譲り南北朝合一が実現。

本題の祇園山古墳に戻すと下宮から九州自動車道の下を抜けて右折突き当りにある。

この方墳の規模は東西24m南北23m高さ6mと推定される。墳丘の周囲には60期以上の棺が発見された。九州自動車道路建設の折、市民運動で80%が残された。

出土した三角縁三神三獣鏡は高良大社増です。懐良親王が発掘寄進

次の古墳はつづて山古墳で4つの石棺があり、大人と子供が埋葬されたものと思われる。屋根をトタンでおおわれて雨にぬれないようにしてあるけれど、説明文が何もなくて寂しいかぎりです。

古墳は福岡県内だけでも1万基を優に超える。本日見学したものが有名な割には物の足りなかつた。もっといろいろな古墳を見にいきたい。特に八女市の岩戸山古墳が大きいのゆっくと見学にいきたいです。

それから久留米に東郷平八郎元帥のゆかりの物件が三カ所あるとの説明があつたのでそこもたづ

けたい。今日寒くて体がふるえて早く終わることを願っていました。次回はもっと良い報告をします。

久留米市 宮本洋子

礪山古墳にしました。4世紀につくられたとのこと石のみでなり4ヶもあり家族だろうとのこと、いにしえへタイムスリップし感動しました。

久留米市 児玉隆子

高良山をただ車で見ていただけだったのがナンと歴史の跡が至る所にあつたのは本当に感動致しました。樋口先生のまるでそこにあられたように話されたのには、只々驚くばかり。

久留米市 栗林智子

初めて参加し、樋口先生に詳細に説明して頂き、知識を深める迄にはいかないけれども、概略だけは理解を得たように思います。今後も参加し学びたいと思います。

久留米市 檜原高信

高良山は明治以前は神仏習合の信仰が山にあつたことがよくわかりました。



祇園山古墳を見学中です。

2016年総会記念講演会

河内 俊英

日時：平成28年2月7日(日)

場所：筑後川防災施設くるめウス

講師：田中研実氏(福岡生物産業開発研究所)

「くるめの未来!にほんの、そしてせかいの未来」循環型社会の実現に向けて

現在、久留米市のそして日本の多くの地域で、生ゴミは燃えるゴミとして90%近くが無駄に焼却されている。他方で日本や世界の多くの国で、化学肥料に頼る農業を行っており、その結果、多くの農地が土壌劣化して生産力が落ちている。さらにその農地で生産された農産物の栄養価は低下し、病害虫にも弱くなり、農薬の大量散布無には生産できなくなっている。

この問題の解決策として田中氏は、生ゴミや有機廃棄物全般を選抜放線菌によって堆肥化していることを紹介された。この放線菌による堆肥は、日本お農産物の復活だけでなく、世界の飢餓を救い、二酸化炭素の排出も減らすのである。生ゴミを燃やすことの無駄を解消し堆肥化することは、栄養価の低い農産物を改善することは、私たちもこれまで発言してきたことである。この堆肥化を大規模に実現し、農業現場で使用し、また近隣の小学生にも体験してもらう活動は、スバラシイ。この有機性廃棄物を生かす放線菌を広げて、無駄なゴミ処理を減らし、おいしくて栄養価の高い農産物の広がる活動に期待し応援したい。

久留米市 田中洋子

私達に身近な問題で大変勉強になりました。循環型社会は今にはじまったことではなく、人類が昔から行ってきたことであたり前の事だと思います。

田中玲子

循環型社会の構築が大切だと思います。多くの方々の衆知を集めなければ広がりにくいので実践例とか理論を多くの方に知って頂くこういう機会

を多く作っていかねばならないと思います。

久留米市 坂本澄子

昨年から家庭菜園をしていて無農薬、野菜クズでわずかながら堆肥にと土に混ぜ込みながら作っていましたが、レイシ、チンゲイサイ、春菊は大変良い出来でいたがその他はミニ野菜となっしまい最近とうとう化学肥料を少し使ってみました。今日のお話しは大変興味深くまずわが家からゴミを出さない工夫をしたいと思います。

久留米市 石井文理

循環型農業の説明ありがとうございます。小食が大事ですね。

久留米市 古賀暉人

勉強になりました。

久留米市 臼井和子

これからの久留米についてみんなで考えてゆかなければならないし、子供、まご達に正しい生き方(食、環境)を伝えていかねばと痛感いたしました。

久留米市 梅野忠

大矢野先生、市役所でのケンノスケの話、皆大切なことで、ケンノスケ氏の話は西日本新聞に出ていましたが今日は新聞にのせないのは残念です。とても良い話でした。



講演する田中氏

平成28年総会総会報告

日時：平成28年2月7日（日）午後1時30分 場所：筑後川防災施設くるめウス

第1号議案平成27年度活動報告、補助金の件

1、例会開催

月日	NO	内容	内容・その他	人数
2月1日	418	平成26年度総会 総会記念講演会 講師 野口勝司（会員） 新年会	場所 筑後川防災施設くるめウス テーマ「筑後川支流金丸川水系・水質生態調査研究経過報告」（平成9～10年～24年）16年間新年会 9名	総会12名 講演会21名
3月29日	419	筑後川春の野草を愉しむ会	場所 筑後川防災施設くるめウス 裏テラス	23名
5月24日	420	高良山樹木の名札付け	場所 高良山後ろ太後谷コース 共催四季の森ふれあい教室開催委員会	19名
7月26日	421	キノコの自然観察会とキノコカレー 講師 金子周平	場所 高良台演習場周辺	31名
9月21日	422	筑後川観月会天体観察講師吉田哲磨	場所 筑後川防災施設くるめウス 共催筑後川まるごと博物館運営委員会	39名
10月18日	423	ネイチャーゲームと自然観察会昆虫担当 杉本千穂	場所 高良山 共催四季の森ふれあい教室開催委員会	23名
12月12日	424	御井町周辺の歴史と文化と自然探訪 講師樋口一成	場所 高良大社下宮社、祇園山古墳	10名

2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
123	2015年1月1日	Deng熱の国内感染（米田豊）	8ページ
124	2015年5月1日	アオモジ（クスノキ科）（猪上信義）	12ページ
125	2015年9月1日	野生のニホンザルと平和に共存するためには（津田堅之介）	12ページ

3、総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催（午後7時30分より）

月日	会議名	場所
1月10日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
2月1日	平成27年総会	筑後川防災施設くるめウス
3月4日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
5月6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
7月1日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
9月2日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
11月4日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F

4、懇親事業

2月1日（日）新年会午後5時15分 インドカレー「ビスヌ」百年公園内

5、他団体への協力

月日	内容	場所（主催者）
7月1日～31日	河川愛護月間展示展示パネル作成：古賀	筑後川防災施設くるめウス（筑後川河川事務所・福岡県・久留米市）
11月23日	緑のハイキング講師 橋田・角・大木・梅野4名	高良山：兜山主催緑の市民会議

6、補助金

福岡都市圏広域行政事業組合から 平成27年7月24日に環境対策補助金20万円を頂きましたことを報告します。（会計年度 2015年4月～2016年3月となっています。報告は4月）

7、第Ⅲ期「身近な植物」ボランティア養成講座6ヵ月：4月～9月まで月1回土曜日に実施

受付9：30 10：00～12：00

集合 高良山・下宮社境内

講師 橋田沙弓 角正博

実施日 平成27年4月～9月コースは高良山の樹木を中心に行う。

1回目 4月25日 テーマ 照葉植物の樹木 4名 2回目5月24日 テーマ 上に同じ 2名 3回目6月27日テーマ上に同じ4名 4回目7月25日テーマ 上に同じ 4名5回目8月29日 テーマ上に同じ 4名 6回目9月27日 テーマ 上に同じ 写真撮影2名

第Ⅳ期「身近な植物」ボランティア養成講座6ヵ月：平成27年10月～28年3月、月1回土曜日 1回目11月23日緑のハイキング 兜山キャンプ場 パネル写真と口頭で発表 1名

3回目 12月19日中止 平成28年王子コースの植物 4回目1月30日テーマ元御井町公民館前9：30集合→王子宫へ（雨天中止）5回目 2月27日テーマ王子宫駐車場に変更王子宫コースの植物、写真撮影 6回目3月19日テーマ春の植物観察王子宫コースの植物 写真撮影 3月26日テーマ食べられる

野草採集 柳坂バス停集合9時半、写真撮影 ツクシ、オランダガラシ、ハコベ、ヤブカンゾウ、セリ、オドリコソウ、ノビル、ナズナ、スマレ他

第2号議案平成27年度収支決算(案)平成27年1月1日~12月31日

収入の部

	平成27年度予算額	平成27年度決算額	比較増減額	備考
前年度繰越金	217,714	217,714		
会費	150,000	108,000	42,000	2000円×37名 4000円×1名 6000円×2名 8000円×1名 10000円×1名
例会行事費	15,000	17,800	△2,800	食材お菓子等
読本代	6,000	2,510	3,490	1冊
カンパ	50,000	100,000	△50,000	野口勝司
補助金	170,000	217,996	△47,996	福岡都市圏 四季の森ふれあい教室実行委員会
雑収入	0	17	△17	利子
謝金収入	0	58,794	△58,794	名札付け ネイチャーゲーム ハイキング
収入の部合計	608,714	722,831	△114,117	

支出の部				
会報作成費	140,000	165,788	△25,788	123号 124号 125号
講師謝礼	25,000	20,000	5,000	観月会 ネイチャーゲーム
通信費	35,000	25,102	9,898	会報発送等
印刷コピー費	30,000	30,116	△116	金丸川報告書
文具費	50,000	82,020	△32,020	プリンターインク等

事務局費	50,000	59,327	△ 9,327	中野氏弔電 交通費 会計手数料 租税公課 HP作成費
行事費	85,000	58,773	26,227	
使用料及び賃料	20,000	3,600	16,400	みんくるロッカー
備品購入	20,000	60,282	△ 40,282	パワギガ ハンドマイク
予備費	153,714	50,380	103,334	
支出の部合計	608,714	555,388	53,326	
収入の部合計	0	167,443		
前年度繰越金	217,714	217,714		
次期繰越金	173,714	167,443		

第3号議案平成28年度事業計画案承認の件

1、例会開催

月日	NO	内容	内容・その他
2月7日(日) 1 3:30~14: 30	425	平成28年度総会環境講演 会講師吉田研実	テーマ「久留米の未来!こほんの、そしてせかいの未来」 会場筑後川防災施設くるめウス新年会「旬食堂キャトル セゾン」
3月27日(日)	426	筑後川春の野草を愉しむ会	会場筑後川防災施設くるめウス裏テラス
5月29日(日) 10:00~1 4:30	427	高良山樹木の名札付け	場所王子宮コース→高良大社境内まで四季の森ふれあい 教室開催委員会
7月10日(日) 9:00~14: 30	428	キノコの自然観察会とキノ コカレー	場所高良台演習場周辺
9月9日(金)	429	筑後川観月会(くるめウス) 講師吉田哲磨	会場 筑後川防災施設くるめウス共催筑後川まるごと博 物館運営委員会
10月16日1 0:00~15: 00	430	ネイチャーゲームと自然観 察会	場所高良山共催くるめネイチャーゲームの会四季の森ふ れあい教室開催委員会

12月10日 (土)	431	御井町周辺の史跡探訪講師 久留米郷土研究会会員	場所 元御井町公民館前
---------------	-----	----------------------------	-------------

2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
126	2016年1月1日	持ち込まれたオオシロカラカサタケは、 ただいま日本を北上中（角正博）	12ページ
127	2016年5月1日		
128	2016年9月1日		

3、総会、会議等 ※幹事会兼事務局会議は毎月第1水曜日に開催（午後7時30分より）

月日	会議名	場所
1月31日	幹事会兼事務局会議、会報発送準備	えーるピア2F
2月7日	総会、環境講演会	筑後川防災施設ぐるめウス
3月2日	幹事会事務局会議	えーるピア久留米2F
5月11日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
7月6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
11月2日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F

4、懇親事業

2月7日（日）17:00 旬食堂キャトルセゾンゆめタウン1F

5、他団体への協力

7月19日河川愛護月間展示 筑後川防災施設ぐるめウス パネル作成古賀

11月23日 緑のハイキング講師5名高良山・兜山緑の市民会議

橋田、国分、角、大木、梅野

6、第VI期「身近なボランティア養成講座6ヵ月：4月～9月まで月1回土曜日に実施

集合 高良山・王子宮コース入口 集合9:30東林駐車場10:00～12:00

講師 橋田沙弓 角正博

実施日平成28年4月～9月高良山王子宮コース→高良大社→王子宮

1回目4月30日テーマ照葉樹林の樹木 写真撮影 2回目5月28日テーマ照葉樹林の樹木の名札付け 3回目6月25日テーマ照葉樹林の樹木写真撮影 4回目7月30日テーマ照葉樹林の樹木写真撮影 5回目8月27日テーマ照葉樹林の樹木写真撮影 6回目9月24日テーマ照葉樹林の植物写真撮影

7 第VI期「身近な植物」ボランティア養成講座6ヵ月：10月～3月まで月1回土曜日に実施

1回目10月29日テーマ照葉樹林の植物写真撮影写真パネル作成

2回目11月23日緑のハイキングで発表 兜山キャンプ場にて写真パネルと口頭で発表

3回目12月17日室内で発表/研究まとめ 御井町時井氏別宅

平成29年元御井町公民館前9:30集合10:00~12:00

4回目1月28日テーマ照葉樹林の植物高良大社鳥居から参道 5回目2月25日テーマ照葉樹林の植物上に同じ 6

回目3月25日テーマ食べられる野草採集 柳坂バス停集合9時半

ツクシ、オランダガラシ、ハコベ、ヤブカンゾウ、セリ、オドリコソウ、ノビル、ナズナ、スマレ他

平成28年度収支予算(案)平成28年1月1日~12月31日

収入の部			
	平成27年 度決算額	平成28年 度予算額	比較増減額
会費	108,000	120,000	△ 12,000
例会行事費	17,800	20,000	△ 2,200
読本代	2,510	10,000	△ 7,490
カンパ	100,000	0	100,000
補助金	217,996	220,000	△ 2,004
雑収入	17	20	△ 3
謝金収入	58,794	60,000	△ 1,206
収入の部合 計	505,117	430,020	75,097

支出の部			
会報作成費	165,788	150,000	15,788
講師謝礼	20,000	20,000	0
通信費	25,102	25,000	102
印刷コピー 費	30,116	5,000	25,116
文具費	82,020	100,000	△ 17,980
事務局費	59,327	60,000	△ 673
行事費	58,773	60,000	△ 1,227
使用料及び 賃料	3,600	5,000	△ 1,400
備品購入	60,282	0	60,282

予備費	50,380	5,020	45,360
支出の部合 計	555,388	430,020	125,368
収入の部合 計ー支出の 部合計	△ 50,271	0	
前年度繰越 金	217,714	167,443	
次期繰越金	167,443	167,443	

第5号議案役員選任の件

会長 橋田沙弓、 副会長 河内俊英 国分謙一
幹事 丸山由紀子 角正博 石橋一也、 事務局 古賀
信夫 大木武彦 梅野忠、 会計 古賀信夫、会報編集
橋田沙弓 古賀信夫 大木武彦 丸山由紀子、 会計監
査 高山美子 安本康時 顧問荒巻健二 松富士将和

備品一覧表

デジタルカメラ (PENTAX K200D) 1、
デジタルカメラ (NIKON) 1、双眼実態顕微鏡 (N
IKONファーブル) 2、プロジェクター (ACER)
1、スクリーン 1、ペンタックスカメラ (50mm/F1.8)、
野草料理調理用具一式、お茶会用具一式、カセットコン
ロ、タイガーレスジャー(木目) 2、2升、3.2升 (寄
付)、パソコン、デジタルマルチテスト マルチ1、
手ぶら拡声器9A パワギガM NZ-690-W 1、
書籍在庫
環境教育読本 ひとつの川から見えるもの162冊

《行事案内》

◇ 第427回例会：

高良山・樹木の名札付けと豚汁会

高良山竹の子コースの樹木の観察と名札付けをおこないます。事前にFAXまたはTELで申し込みをお願いします。

〔日 時〕：5月22日(日) 雨天中止

〔集合・解散場所〕：高良内幼稚園駐車場

〔参加費〕：100円 定員30名

〔持参するもの〕：マイはし、茶わん、おわん、水筒、帽子、筆記用具

〔共催〕：四季の森ふれあい教室開催委員会
(事務局 市農政部緑の里づくり推進課)

◇ 第428回例会：

キノコの観察会とキノコカレーの会

高良台周辺の賞状樹林下のキノコの観察会をします。キノコの観察指導や金子周辺先生です。事前にFAXまたはTELで申し込みをお願いします。

〔日 時〕：7月10日(日) 雨天決行

〔集合・解散場所〕：上津小学校運動場入口

〔集合・解散時間〕：9:00 14:30

〔参加費〕：200円 定員20名

〔持ち物〕：マイスプーン、マイ皿、マイカップ、水筒、帽子、雨具、筆記用具

◇ 第429回例会予告：

月面観察と周辺の天体と星座の観察をします。天体観測と星座の指導は吉田哲磨先生です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月9日(金) 19:00~21:00 雨天中止

〔集合場所〕：筑後川防災施設くるめウス

◇ 第6期「身近な植物ボランティア養成講座」

実施日 4月30日、5月14日、6月25日、7月30日、8月27日、9月24日

〔集合・解散〕：高良大社下宮社 9:00

《事務局だより》

物をするにはこれ愛さなければならない。物を愛するにはこれを知らねばならない。知ることは興味を持つ第一歩です。講演会で話を聞いて、これは良い話だったと思っても実行しないといけません。興味を持ったら好きになることです。好きでないと世話ごとはやれないでしょう。特に介護の仕事はいやいやされたのでは介護される方はたまったものではありません。

相田みつを氏の言葉に同じやるなら、本腰を入れてやってごらん、そのほうがつかれないでたのしいから。というのがあります。

好きでやれば苦にならず没頭できます。どんなに好きでも楽しむにはかなわないそうです。

人生は好きなことを見つけて、それを楽しみの境地にもってゆけば幸せで、ボケ防止になります。私は草取りと落葉拾いで楽しんでいます。

ホームページ <http://kurumenoshizen.net>

1. 会員異動

なし

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号128号は平成28年9月1日発行予定です。原稿の〆切は4月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として奇数月第1水曜日の19:30~21:00まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(5月11日、7月6日、9月7日)

久留米の自然

平成28年5月1日第127号

発行 久留米の自然を守る会

E-mail hashida@kurumenoshizen.net

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 51-7064 FAX 51-7065 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408